

羽田発着枠政策コンテストの概要

コンテスト概要

- 地方航空ネットワークの維持・充実には、企業努力のみではなく、地域と航空会社とのパートナーシップを通じてニーズにあった需要喚起策等の取組を実施していくことが重要。
- このような取組を促進するため、羽田の政策枠3枠を活用して「羽田発着枠政策コンテスト」を実施。
- 増便を希望する地域とパートナーたる航空会社の今後の取組について、有識者懇談会（H25.11.6）による評価を実施し、優秀と考えられた3路線（羽田＝山形、鳥取、石見）に1枠ずつ配分。
- 配分はH26夏ダイヤからH27冬ダイヤまでの2年間の期間限定であり、各路線毎の目標に向けたこれまでの取組みを有識者懇談会（H27.12.10）においてA、B、C、Dの4段階で評価（A…大変優れている、B…一定の効果が認められる、C…大幅な改善を要する、D…成果が期待できない）。

有識者懇談会委員

- | | | | |
|--------|----------------------|---------|---------------------|
| ○加藤 一誠 | 慶應義塾大学商学部教授 | ○廻 洋子 | 淑徳大学経営学部教授 |
| ○竹内 健蔵 | 東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授 | ○矢ヶ崎 紀子 | 東洋大学国際地域学部国際観光学科准教授 |
| ○花岡 伸也 | 東京工業大学大学院理工学研究科准教授 | ○柳川 範之 | 東京大学大学院経済学研究科教授 |

各路線の実績※1

	羽田＝山形(JAL 1→2便)			羽田＝鳥取(ANA 4→5便)			羽田＝石見(ANA 1→2便)		
	25年度	26年度	27年度※2	25年度	26年度	27年度※2	25年度	26年度	27年度※2
旅客数 (25年比)	30,828 (－)	79,004 (256.3%)	52,028 (284.5%)	315,153 (－)	326,492 (103.5%)	213,866 (111.2%)	70,934 (－)	105,199 (148.3%)	72,803 (157.5%)
座席 利用率	56.3%	71.9%	80.6%	64.2%	55.1%	61.8%	58.2%	49.8%	58.8%
目標	—	78,000 70%	78,000 70%	—	310,000 51.6%	350,000 60%	—	120,000 57.5%	127,000 60.8%※3

※1 羽田＝山形路線については無償搭乗者も含んだ数値、羽田＝鳥取路線及び羽田＝石見路線については有償搭乗者のみの数値。

※2 27年度については、4月～10月で集計。25年比は25年4月～10月期との比較値。

※3 27年10月25日に機材を大型化(B737→A320)したため、年間を通じたL/F目標値は56.7%となる。